

## 2022 年度日本分析化学会役員

会長 (代表理事)	早下 隆士					
副会長	石濱 泰	保倉 明子	藤浪 眞紀	大谷 肇	鈴木真由美	
庶務担当理事	渡慶次 学	西澤 精一	山本 博之	栗原 誠	村松 康司	中山 雅晴
	黒田 直敬	宮野 博	上野 祐子	吉田 裕美		
会計担当理事	松浦 義和	小澤 岳昌				
編集担当理事	長谷川 健	水口 仁志	津越 敬寿			
常務理事	柿田 和俊					
監事	田中 俊逸	金澤 秀子				

## 2022 年度日本分析化学会支部役員

<b>【北海道支部】</b>	(〒060-8628 北海道札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学大学院工学研究院応用科学部門内)
支部長	渡慶次 学
副支部長	坂入 正敏 (木村)須田廣美
参 与	伊藤八十男 大谷 友二 片山 則昭 喜多村 昇 齋藤 健 神 和夫 高橋 英明
長谷部 清	藤吉 亮子 森田みゆき 横沢 龍朗
監 事	伊藤 慎二 蠣崎 悌司
庶務幹事	菅 正彦 谷 博文
会計幹事	真栄城正寿 三浦 篤志
幹 事	青柳 直樹 (荒木)池田敦子 石田 晃彦 今枝 佳祐 上野 貢生 宇都 正幸 大木 淳之
大津 直史	岡 征子 奥田 弥生 川口 俊一 工藤 英博 黒澤 隆夫 齋藤 徹 堺井 亮介
佐々木隆浩	佐藤 久 真田 哲也 高瀬 舞 高橋 徹 田中 俊逸 田原るり子 千葉 真弘
徳光 藍	富田 恵一 中田 耕 中谷 暢丈 西村 一彦 沼田ゆかり 古崎 睦 松井 宏之
南 尚嗣	三原 義広 村井 毅 諸角 達也 山田 幸司 吉田 将己 吉村 昭毅 若杉 郷臣
<b>【東北支部】</b>	(〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-07 東北大学大学院環境科学研究科先端環境創成学専攻)
支部長	西澤 精一
副支部長	大江 知行 高貝 慶隆
参 与	秋葉 健一 宇野原信行 大関 邦夫 大類 洋 尾形 健明 荻野 博 長 哲郎
小田嶋次勝	後藤 順一 斎藤 紘一 佐藤 允美 南原 利夫 糠塚いそし 星野 仁 山崎 慎一
四ツ柳隆夫	
監 事	壹岐 伸彦 藤村 務
庶務幹事	熊谷 将吾
会計幹事	福山 真央
幹 事	赤坂 和昭 石川大太郎 伊藤 徹二 伊野 浩介 井上 賢一 岩田 吉弘 遠藤 昌敏
大橋 弘範	小川 信明 押手 茂克 尾高 雅文 上條 利夫 唐島田龍之介 菊地 洋一 菊池美保子
北川 文彦	斎藤昇太郎 佐藤 勝彦 佐藤 健二 佐藤 雄介 猿渡 英之 珠玖 仁 志村 清仁
田副 博文	多田 美香 寺前 紀夫 照井 教文 仲川 清隆 中川 公一 西澤 松彦 沼田 靖
野原 幸男	橋本 隆光 橋本 幹雄 火原 彰秀 平野 愛弓 平山 和雄 福島美智子 末永 智一
松村 洋寿	眞野 成康 盛田 伸一 山田 理恵 和久井喜人 渡辺 壱 渡辺 健一 渡辺 忠一
<b>【関東支部】</b>	(〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学理工学部分析化学研究室内)
支部長	津越 敬寿
次期支部長	安田 純子
副支部長	四宮 一総 野呂 純二 平山 直紀
参 与	梅澤 喜夫 大橋弘三郎 岡田 哲男 小熊 幸一 金澤 秀子 楠 文代 合志 陽一
澤田 清	渋川 雅美 菅原 正雄 杉谷 嘉則 高田 芳矩 高村喜代子 田中 龍彦 角田 欣一
中込 和哉	中村 洋 二瓶 好正 丹羽 修 早下 隆士 平井 昭司 藤浪 眞紀 保母 敏行
前田 瑞夫	宮村 一夫 望月 直樹 矢野 良子 山崎 素直 山根 兵 山本 博之
監 事	会田 秀樹 鈴木 康志

# お知らせ

常任幹事	青木 寛	石川 隆一	稲川 有徳	植田 郁生	上野 祐子	梅林 泰宏	大塚 克弘
岡村 浩之	国村 伸祐	坂元 秀之	敷野 修	島田亜佐子	東海林 敦	菅沼 こと	菅原 一晴
鈴木彌生子	高橋あかね	高橋由紀子	高橋 豊	谷合 哲行	豊田 太郎	並木 健二	丹羽 宏之
林 英男	蛭田 勇樹	古庄 義明	本田 俊哉	宮下 隆	望田 啓子	山口 央	吉田 達成
支部幹事	伊藤 彰英	勝又 啓一	加藤 健	亀田 直弘	土戸 優志	中村 圭介	半田友衣子
福原 学	南 豪	南木 創	森岡 和大	森田耕太郎			

**【中部支部】** (〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須1-35-18 一光大須ビル7F (公財)中部科学技術センター内)

支 部 長	長谷川 浩						
次期支部長	江坂 幸宏						
副支部長	倉光 英樹	巽 広輔					
顧 問	板谷 芳京	上田 一正	上田 穰一	太田 清久	北川 邦行	酒井 忠雄	佐々木与志実
田口 茂	柘植 新	津田 孝雄	寺田喜久雄	永長 幸雄	中村 俊夫	野村 俊明	早川 和一
原 稔	樋上 照男	平出 正孝	舟橋 重信	本浄 高治	三輪 智夫	村田 旭	山田 真吉
山寺 秀雄	湯地 昭夫						
参 与	一ノ木 進	井村 久則	宇野 文二	大谷 肇	小谷 明	小泉 貞之	竹内 豊英
田中 智一	遠田 浩司	中田 隆二	波多 宣子	服部 敏明	馬場 嘉信	藤本 忠蔵	
監 事	金子 聡	栗原 誠					
庶務幹事	眞塩麻彩実	山本 拓平					
会計幹事	村上 貴哉	水野 初					
常任幹事	石田 康行	小川 数馬	加藤 亮	佐澤 和人	柴田 信行	高田 主岳	高橋 透
高橋 史樹	立石 一希	轟木堅一郎	湯川 博	リムリーフ			
幹 事	飯國 良規	伊藤 雅章	植松 宏平	黄 国宏	内村 智博	太田 鑑	太田 一徳
奥山 修司	甲斐 穂高	香川 信之	勝又 英之	菅野 憲	儀賀 義勝	北川 均	北出 和久
木全 良典	金 継業	妹尾 健吾	袋布 昌幹	西山 嘉男	丹羽 敏之	丹羽 啓誌	淵上 剛志
古川 真衣	松宮 弘明	御子柴正明	山下 智富	吉田 一之	吉田 佳宏	藁科 知之	

**【近畿支部】** (〒550-0004 大阪府大阪市西区鞆本町1-8-4 (一財)大阪科学技術センター内)

支 部 長	村松 康司						
次期支部長	山本 雅博						
副支部長	森田 成昭	岩月 聡史					
庶務幹事	北隅 優希	森澤 勇介					
会計幹事	糟野 潤	奥田 浩子					
参 与	荒川 隆一	池田 篤治	池田 昌彦	大塚 利行	小川禎一郎	尾崎 幸洋	垣内 隆
加納 健司	木原 壯林	木村 恵一	木村 優	紀本 岳志	日下 譲	小島 次雄	佐伯 正夫
佐藤 昌憲	澁谷 康彦	田中 稔	谷口 一雄	千熊 正彦	寺部 茂	中川 照眞	中原 武利
萩中 淳	藤田 芳一	藤原 英明	増田 嘉孝	松下 隆之	八尾 俊男	横井 邦彦	脇阪 達司
渡辺 巖	渡會 仁						
常任幹事	石濱 泰	久保 拓也	桑本 恵子	駒谷慎太郎	鈴木 雅登	諏訪 雅頼	高原 晃里
田邊 一郎	壺井 基裕	鳥羽真由子	中田 靖	西 直哉	長谷川 健	堀田 弘樹	山口 英一
山本佐知雄	吉田 朋子	吉田 裕美					
幹 事	青山 佳弘	浅川 大地	飯田 琢也	石切山一彦	石濱 泰	磯尾賢太郎	伊藤 滋之
岩井 貴弘	岩本 仁志	上田 啓太	宇田 亮子	遠藤 達郎	大塚 利行	大城 敬人	大塚 浩二
岡本 行広	小堤 和彦	小山 宗孝	門 晋平	金尾 英佑	河合 潤	川上奈津子	川崎 英也
河原 直樹	川元 達彦	北山 紗織	木村 敦臣	久保田直哉	久保埜公二	倉内 奈美	小池 亮
小林 典裕	小林 宏資	坂本 英文	佐々木健次	佐々木隆之	作花 哲夫	椎木 弘	下赤 卓史
下条晃司郎	下山 昌彦	許 岩	白井 理	末吉 健志	杉原 崇康	杉山 雅人	鈴江 崇彦
鈴木 茂生	鈴木 哲仁	砂山 博文	瀬戸 康雄	宗林 由樹	宋和 慶盛	高木 達也	高野祥太郎
高橋 弘樹	武上 茂彦	竹田さほり	田中 章夫	田中 陽	谷田 肇	千葉 光一	茶山 健二
塚越 一彦	塚原 聡	塚本 効司	辻 幸一	角井 伸次	坪井 泰之	天満 敬	土井 光暢
床波 志保	豊田 岐聡	永井 秀典	中口 譲	中澤 隆	中島 陽一	中原 佳夫	並川 敬
中山 茂吉	西尾 友志	西埜 誠	野田 達夫	萩森 政頼	橋田紳乃介	長谷川 健	張野 宏也
東 昇	久本 秀明	藤居 義和	藤嶽 暢英	藤森 啓一	藤原 学	布施 泰朗	細矢 憲

# お知らせ

堀山志朱代 本間 秀和 前田 耕治 牧 秀志 松本 明弘 丸尾 雅啓 三木功次郎 三戸彩絵子  
 宮崎 哲男 宮道 隆 向井 浩 村上 正裕 森内 隆代 矢嶋 摂子 安井 裕之 安川 智之  
 山垣 亮 山口 敬子 山本 茂樹 山根 常幸 脇田 慎一 渡邊 誠

【中国四国支部】(〒739-8526 広島県東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院先進理工系科学研究科(基礎化学プログラム)分析化学研究室内)

支 部 長 中山 雅晴  
 次期支部長 朝日 剛  
 副支部長 名郷 洋信  
 支部参与 池田 早苗 伊藤 一明 今井 嘉彦 岩知道 正 奥村 稔 木卜 光夫 熊丸 尚宏  
     善木 道雄 田頭 昭二 竹味 弘勝 中野 惠文 林 康久 平田 静子 廣川 健 藤原 照文  
     北條 正司 真鍋 敬 宮田 晴夫 本仲 純子 本水 昌二 森田 秀芳 山崎 恒博  
 支部監事 早川慎二郎 若林 茂夫  
 庶務幹事 浅野 比 管原 庄吾 長門 Edward 豪 水口 仁志  
 会計幹事 浅岡 聡  
 常任幹事 一色 健司 石坂 昌司 泉 雅典 今井 昭二 上田 忠治 上田 真史 越智 一志  
     金田 隆 紙谷 浩之 北出 哲朗 北山 宏三 小園 修治 座古 保 高柳 俊夫 竹田 一彦  
     田所 大典 田中 秀治 谷崎 達也 谷本 典之 西 博行 原 哲也 藤原 薫 村上 良子  
     森本 稔 藪谷 智規 横山 崇 吉田 和広 吉村 友宏 和田 修治 川村 邦男 小崎 大輔  
 支部幹事 安達 健太 井上 裕文 牛島 淳憲 片岡 洋行 荻部 甚一 谷村 俊史 永阪 文惣 西本 潤  
     小松原恒生 島崎 洋次 竹内 政樹 竹永 史典 武安 伸幸 谷村 俊史 永阪 文惣 西本 潤  
     西脇 芳典 樋口 浩一 藤井 健太 藤原 勇 渊脇 雄介 松原 弘樹 森 勝伸 門木 秀幸  
     山下 浩 山本 剛 山本 孝 吉岡 徹 和田 光弘

【九州支部】(〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元 1-21-35 鹿児島大学大学院理工学研究科)

支 部 長 富安 卓滋  
 次期支部長 井上 高教  
 副支部長 大平 慎一 赤瀬信一郎  
 参 与 石黒 慎一 今坂藤太郎 今任 稔彦 岩崎 正武 大森 保 鎌田 薩男 喜納 兼勇  
     黒木 広明 合屋周次郎 財津 潔 下田 満哉 城 昭典 高舘 明 谷口 功 田端 正明  
     出口 俊雄 中島憲一郎 中村 博 増田 義人 松本 清 山口 政俊 山田 淳 脇田 久伸  
 監 査 井原 敏博 高橋 政孝  
 庶務幹事 神崎 亮  
 会計幹事 児玉谷 仁  
 常任幹事 新垣 雄光 石川 洋哉 稻田 幹 大島 達也 川上 健次 栗崎 敏 黒田 直敬  
     高橋 幸奈 竹中 繁織 戸田 敬 浜瀬 健司 松田 直樹 松森 信明  
 幹 事 安藤 功 井倉 則之 池上 天 石岡 寿雄 石田 雄士 内原 博 宇都宮 聡  
     梅木 辰也 王子田彰夫 大渡 啓介 大庭 義史 尾本 憲昭 恩田 健 加地 範匡 片山 佳樹  
     加藤 祐子 梶島 力 梶島 正美 上畑桂太郎 河濟 博文 川畑 明 岸川 直哉 北村 裕介  
     木下 将和 栗原 龍 呉 行正 財津 慎一 笹木 圭子 佐藤しのぶ 佐藤 博 佐藤 正雄  
     佐野 洋一 澤津橋徹哉 塩路 幸生 清水 陽一 白土 英樹 末田 慎二 宗 伸明 高橋 章  
     高橋 浩司 高椋 利幸 竹原 公 田中 明 田中 充 天日 美薫 富永 昌人 中島 常憲  
     中園 学 中武 貞文 中野 幸二 中村 沙織 新留 康郎 西田 正志 能田 均 能登 征美  
     野間 誠司 馬場 由成 巴山 忠 原口 浩一 原田 明 原田 雅章 肥後 盛秀 藤井 清永  
     前田 明広 増田 寿伸 真瀬田幹生 又吉 直子 松井 利郎 松野 康二 松本 篤彦 水城 圭司  
     光井 康浩 満尾 良弘 満塩 勝 三宅 孝彰 村田 正治 森 健 安田みどり 藪下 彰啓  
     山口 敏男 山下 将一 横山さゆり 横山 拓史 吉田 亨次 吉田 秀幸 吉田 祐一 吉留 俊史  
     吉村 和久

## 2021年「分析化学」論文賞

多数の掲載論文の中から厳正なる審査の結果、標記論文賞が下記のとおり決まりました。受賞論文の概要は本号 226~227 ページをご覧ください。

著者：河相優子・白井亮洋・角田正也・井手上公太郎・末吉健志・遠藤達郎・久本秀明

題名：『インクジェットプリンティングによる試薬固定化法を利用する1ステップバイオアッセイマイクロデバイスの開発』

〔分析化学〕所載ページ：第70巻第3号、125-131ページ

著者：澤野理花・前島健人・柴田寛之・蛭田勇樹・Daniel CITERRIO

題名：『多項目尿検査のための距離検出型ペーパーデバイス』

〔分析化学〕所載ページ：第70巻第3号、175-181ページ

## 第27講研究開発リーダー実務講座2022

—企業の将来を担う理想の研究開発リーダー像とは？—  
〈対面式/オンライン式併用開催〉

主催 (一社) 近畿化学協会

協賛 (公社) 日本分析化学会近畿支部

日時 第1回：2022年7月8日(金)、第2回：8月3日(水)、  
第3回：9月9日(金)、第4回：10月6日(木)、第5回：  
11月2日(水)、第6回：12月2日(金)、各回13.00~  
18.30(予定)

開催方法 対面式：大阪科学技術センター〔大阪市西区靱本町1-8-4〕

オンライン式：「Zoom」を利用

プログラム (各回終了後、グループディスカッション、交流会(対面式参加者のみ)を開催)

7月8日(金) 第1回【研究開発リーダーのあり方】

1. 研究開発者が持つべき「商品力」とは—あなたが開発した商品はなぜ売れないのか—(ケルセジェン・ファーマ/アルプス薬品) 小野光則

8月3日(水) 第2回【新規事業への挑戦とアントレプレナーシップ】

1. 目撃証言 富士フィルムのトランスフォーメーション(富士フィルム) 曾呂利忠弘
2. 科学技術イノベーション創出のためのアントレプレナーシップ(神戸大院経営) 忽那憲治

9月9日(金) 第3回【人財を活かすマネジメント】

1. 研究開発マネジメントとダイバーシティ推進(ウェストコーナー) 西田まゆみ
2. 三洋化成の社員のモチベーションを高める施策について(三洋化成) 前田浩平

10月6日(木) 第4回【産学連携と知財戦略】

1. 産学連携を成功に導く知財戦略(特許庁) 進士千尋
2. 産学連携によるイノベーションの創出(神戸大院科学技術イノベーション) 坂井貴行

11月2日(水) 第5回【イノベーションと変革】

1. イノベーションを先導できる研究リーダーとは？(医療基盤・健康・栄養研) 近藤裕郷
2. 「月曜日が楽しみな会社にしよう！」研究開発の生産性を飛躍的に向上させ、イノベーションを加速する全体最適のマネジメント理論 TOC (Goldratt Japan) 岸良裕司

12月2日(金) 第6回【ビジョンと独創的な製品開発】

1. 創薬への情熱—睡眠薬ロゼレムの誕生秘話—(東和薬品) 内川 治

参加費 主催団体所属会員 66,000円、協賛団体所属会員 88,000円、会員外 110,000円(1名参加分、6回通し受講のみ、消費税込)

申込・問合せ先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センター6階(一社)近畿化学協会「研究開発リーダー実務講座」係〔電話：06-6441-5531、FAX：06-6443-6685、E-mail：seminar@kinka.or.jp〕

詳細はホームページ

<https://kinka.or.jp/event/2022/27leader.html> をご参照ください。

## 第373回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社) 日本分析化学会液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

Q-TOFMSを中心に、主にMS2に高分解能質量分析部を配した高分解能LC/MS/MS装置は複数のメーカーから発売され、性能や機能の向上は目覚ましいものがあります。MS2の質量分解能を向上させるための技術や、イオンモビリティ技術、未知化合物の定性分析をサポートするソフトウェアなどの開発も進んでいます。本例会では、質量分析装置および関連する企業様を中心に、高分解能LC/MS/MS装置や関連技術の最新動向についてご講演いただきます。また、高分解能LC/MS/MS装置により得られるマスペクトル解析に関する基礎講座も行います。

期日 2022年7月27日(水) 13.00~17.20

会場 Zoom オンライン会場

講演主題 高分解能LC/MS/MS装置や関連技術の最新動向講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)

(エムエス・ソリューションズ(株)) 高橋 豊  
(LC分析士二段、LC/MS分析士五段)

1. 高分解能型質量分析計Orbitrapをベースとした未知化合物解析のご紹介(13.05~13.45)

(サーモフィッシュャーサイエンティフィック(株)) 永島良樹(LC/MS分析士初段)

2. イメージング質量顕微鏡iMScope QTのご紹介(13.45~14.25)

(株)島津製作所) 渡邊 淳(LC分析士初段)

3. 最新のQTOF-MSの特長とアプリケーションの紹介(14.25~14.55)

(アジレント・テクノロジー(株)) 林 明生  
(LC分析士初段、LC/MS分析士二段)

休憩(14:55~15:10)

4. Time of FlightとIon Mobilityの領域を拡大する最新技術(15.10~15.55)

(日本ウォーターズ(株)) 佐藤 太(LC/MS分析士初段)

5. 高分解能LC/MS/MSによるマスペクトル解析基礎講座(15.55~16.45)

(エムエス・ソリューションズ(株)) 高橋 豊  
(LC分析士二段、LC/MS分析士五段)

6. 総括「高分解能LC/MS/MS装置や関連技術の最新動向」(16.45~17.15)

(東京理科大学) 中村 洋

(LC分析士五段、LC/MS分析士五段)

参加費 LC研究懇談会個人会員：1,000円、協賛学会(日本分析化学会、日本薬学会、日本化学会)及び後援学会(日本農芸化学会)会員：3,000円、その他：4,000円、学生：1,000円。参加申込締切日後の受付はできませんので、ご了承ください

さい。

情報交換会 講演終了後、講師を交えて情報交換会を開催します(会費1,000円)。締切日後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申込みください。

参加申込及び参加費等納入締切日 2022年7月20日(水)(入金締切時刻:15時まで)

申込方法 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC会員・協賛学会会員・その他の別及び情報交換会参加の有無を明記の上、お申込みください。お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス宛に「第373回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、世話人までお問い合わせください。

参加費の納入が確認できた方には、7月21日(木)以降に①例会サイト入場URLと②「視聴者用操作マニュアル」をお送りします。また、情報交換会参加費納入者には、③情報交換会サイト入場URLをお知らせいたします。なお、請求書と領収書の発行はいたしておりません。領収書は、振込時に金融機関が発行する振込票等をもって替えさせていただきます。

申込先 <https://forms.gle/hVGyZYs6c9wwfL6J6>

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341 口座名 シヤニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人 日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合せ先 (公社)日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 エムエス・ソリューションズ(株) 高橋 豊 [E-mail: tyutaka@sitsuryobunsekiya.com]

## 九州分析化学若手の会

## 第35回若手研究講演会および第40回夏季セミナー

主催 九州分析化学若手の会、(公社)日本分析化学会九州支部

期日 2022年7月29日(金)・30日(土)

会場 オンライン開催

内容 分析化学に関する若手研究者間の勉強会・講演会

○招待講演1:

化学センサーからマイクロ分析デバイス・システムへ:現在の研究に至るまで(大阪公立大学)久本秀明

○招待講演2:

おいしい食感のデザイン~破壊過程に着目した官能評価・物性測定・構造観察~(明治大学)中村 卓

○招待講演3:

「知覚する」分子系の進化デザイン学(早稲田大学)梅野太輔

○九州分析化学奨励賞授与式・受賞講演

○九州分析化学ポスター賞受賞者模範ポスター発表

○一般発表:(優秀発表者には九州分析化学若手賞が授与されます)

○総会

○情報・意見交換会

参加費 無料

申込及び要旨原稿作成・送信方法等、詳細については、日本分析化学会九州支部のホームページ([http://www.jsac.or.jp/~jsac\\_kyushu/](http://www.jsac.or.jp/~jsac_kyushu/))を通じてご案内いたします。

問合せ先 〒840-8502 佐賀市本庄町1 佐賀大学農学部生物資源科学科生命機能科学コース 宗 伸明、野間誠司〔電話:0952-28-8773, E-mail: kyushubunsekiwakate40@gmail.com〕

## ——以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

## 熱測定オンライン討論会 2022

主催 日本熱測定学会

期日 2022年6月17日(金)、7月8日(金)、8月5日(金)、8月26日(金)、9月16日(金)

会場 オンライン開催

ホームページ <https://www.netsu.org/2022onlinelecture/>

連絡先 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮澤ビル601 日本熱測定学会事務局〔電話:03-5821-7120, FAX:03-5821-7439, E-mail: netsu@mbd.nifty.com〕

第40回高分子表面研究会基礎講座  
「表面をつくる・みる・つかう」

主催 (公社)高分子学会高分子表面研究会

期日 2022年6月30日(木)

会場 Webex Meetings によるオンライン開催

ホームページ

<https://member.spsj.or.jp/event/index.php?id=362>

連絡先 〒104-0042 東京都中央区入船3-10-9 新富町ビル6F (公社)高分子学会 第40回高分子表面研究会基礎講座係〔電話:03-5540-3770, FAX:03-5540-3737〕

プラズマ分光分析研究会第116回講演会  
—ISM-8 Post-Conference in Tokyo—

主催 プラズマ分光分析研究会

期日 2022年7月15日(金)

会場 東京大学小柴ホールおよびZoomによるオンライン

ホームページ <https://plasma-dg.jp/>

連絡先 プラズマ分光分析研究会事務局 梅村知也〔電話:FAX:045-924-5688, E-mail: office@plasma-dg.jp〕

## 第11回環境放射能除染研究発表会

主催 (一社)環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会

期日 2022年8月24日(水)・25日(木)

会場 けんしん郡山文化センター(郡山市民文化センター)とWebのハイブリッド開催

ホームページ <http://khjosen.org/>

連絡先 〒305-0061 茨城県つくば市稲荷前24-10-A-102 (一社)環境放射能とその除染・中間貯蔵および環境再生のための学会〔電話:029-886-9227, FAX:029-886-9228, E-mail: 11th-conf@khjosen.org〕

## 第71回ネットワークポリマー講演討論会

主催 合成樹脂工業協会  
 期日 2022年10月19日(水)~21日(金)  
 会場 伝国の杜 置賜文化ホール(山形県米沢市)  
 ホームページ <http://www.networkpolymer.jp/>  
 連絡先 〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町1-10-4 丸石ビルディング6F 合成樹脂工業協会 ネットワークポリマー講演討論会事務局 [電話:03-5298-8003, FAX:03-5298-8004, E-mail:networkpolymer@jtpia.jp]

## 第33回クロマトグラフィー科学会議

主催 クロマトグラフィー科学会  
 期日 2022年11月3日(木)~5日(土)  
 会場 Web開催(Zoom)  
 ホームページ <https://scs33.jimdofree.com>  
 連絡先 〒108-8641 東京都港区白金5-9-1 北里大学薬学部 第33回クロマトグラフィー科学会議事務局 [電話:03-5791-6380, E-mail:scs33@pharm.kitasato-u.ac.jp]

## 第49回炭素材料学会年会

主催 炭素材料学会  
 期日 2022年12月7日(水)~9日(金)  
 会場 姫路市民会館  
 ホームページ <http://www.tanso.org/>  
 連絡先 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 炭素材料学会年会ヘルプデスク [FAX:03-3368-2827, E-mail:tanso-desk@bunken.co.jp]

## 「分析化学討論会」特集の論文募集

「分析化学」編集委員会

第82回分析化学討論会では、「環境における放射性物質と分析化学」、「量子ビームと分析化学」、「地域から世界へ発信する電気分析化学」、「ヘルスケアと分析化学」、「内山一美先生を偲ぶ」の5テーマを討論主題として取り上げました。また、討論主題以外に、公開シンポジウムとして、「食の安全と分析化学」を開催しました。

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。2022年度の分析化学討論会特集号では、「未来を拓く分析化学～環境・資源・医療・食料問題等への挑戦」をテーマとし、第82回分析化学討論会で設けた討論主題5テーマと公開シンポジウムに関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は「分析化学」71巻6号及びホームページをご覧ください。

特集論文の申込締切:2022年7月8日(金)  
 特集論文の原稿締切:2022年8月12日(金)

## 「分析化学」年間特集「流」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し2023年は「流」をテーマとすることと致しました。

本特集では「流」をキーワードとして分析化学における基礎・応用を含めて幅広い観点で見渡し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第72巻(2023年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「流」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象:「流」に関連した分析化学的な基礎・応用研究に関する論文。例を以下に示します。1)液体や気体などの流れを利用した分析装置や分析手法の開発・応用、2)連続的に流れている河川や大気などの分析に関する研究、3)製造ラインなどの流れの中で利用する分析法の開発・応用、4)電子の流れを計測する電気分析化学的研究、5)原子・分子の流れを扱うシミュレーションを活用した分析化学的研究。

特集論文申込締切:2022年7月15日(金) (第1期)  
 特集論文原稿締切:2022年8月19日(金) (第1期)

「分析化学」編集委員会特集  
「ウェルネスに貢献する分析化学」の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第6号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています。「編集委員会特集」では話題性の高い分析手法や分析分野に関連する論文を募集・掲載しています。

2023年度(第72巻)の「編集委員会特集」のテーマは、『ウェルネスに貢献する分析化学』に決定いたしました。ウェルネスは、医学的見地等から肉体的、精神的状態を判断する健康(ヘルス)を手段・基盤とし、より豊かに、より美しく、より輝く人生を目指していく過程と定義されています。ヘルスケア産業は、医療、健康、スポーツ分野から普及し、健康課題に敏感な高齢者層を対象とした受動的な産業であるのに対し、能動的に人生を豊かに彩るライフスタイルを目指すウェルネスは、パーソナルケア、アンチエイジング、フィットネス、食品、予防医療等を基に全世代をターゲットとした産業として注目を浴び、近年、その市場は急速に伸びています。

上記状況に鑑み、本特集では、ウェルネスに貢献する分析化学と題し、医療、福祉、スポーツ、食と農、美容、環境、IT等の様々な分野における分析化学を対象とした研究に着目することと致しました。ウェルネスに関連した、新たなサイエンスを切り拓くための基盤技術、およびその応用に関する論文の投稿をお待ちしております。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文申込締切:2022年10月7日(金)  
 特集論文原稿締切:2022年12月2日(金)